

高原農場を開発した 那珂川の水



天空を渡る晩翠橋

不毛の大平原を巨大な牧場に開墾してしまつた川を訪ねて栃木県黒磯に入る。JR黒磯駅から陸羽街道を通つて街並みを通り抜けたトタンに「アツ」と大声を出してしまつた。足下には大地を深くえぐり取つた大河那珂川が堂々と流れ、出迎えてくれたからだった。その深い谷にはつり橋のような高いアーチ橋が渡され一枚の絵となつており、あまりにも美しい風景が用意されていた。

恐る恐る橋を渡りはじめ、上流に広がる那須平原を写真におさめつつ高い橋を渡りきり対岸に着いてホツとする。崖の上に東京の戸山高校那須寮と書かれた門柱を発見して、なぜか嬉しくなつて写真におさめていると、門前の古そうな畳屋のおじさんに声を掛けられた。

「橋の写真を撮っていたが橋に興味をお持ちかね？」と話しながら、畳屋の店の中に招き入れてくれた。

今渡ってきた美しい橋の名を訊ねれば待つてましたとばかりに、ニコツとして店の奥の方へ行ってしまつた。部屋の壁に張られた橋の写真とか数多くの賞状を見回しているとおじさんが戻つてきて、だまつて一冊の本を差し出してきた。

多くを語らずに差し出

された本の表紙に「晩翠橋」と書かれており、そこに質問の答えが用意されていた。大器晩成の意をくんだ漢詩から引用したそつで、あの有名な荒城の月を作詩した土井晩翠も同じ詩から引用したそつな。多くを語らず、その本を開いて引用された漢詩のところを指さしており、ただそれだけで大物の人物であることを感じ取つてしまつた。何度もお礼を申し上げ、また何度も振り返りながら畳屋さん和晩翠橋を後にして上流へ向かう。

那珂川に沿つた那須街道は美しい赤松林のトンネルがどこまでも続き、松を意味する晩翠の名をかみしめながら上る。那須高原大橋の近くから那須疎水の案内板に従つてさらに進むと、突然、美しい那珂川の河原に飛び出した。那須疎水の取水口を発見し嬉しくなる。とうとうと流れるこの那珂川の水が那須の原野を切り開いたのかと思いつつ、河原の大きな石の上にドツカと座り込んで流れを見つめているとささやきかけてきた。

「ゆつひそ。御用邸のある那須高原へ」と川の流ればいやに御用邸を強調しながら



那珂川の崖の上に建つ広大な学校寮

ら語りかけてきた。現天皇陛下は那須高原、特に那珂川や上流の沼原湿原をこよなく愛されたことを自慢しているようでもあった。そして日本のTVAと云われたほどの大事業であつたのだから、青木牧場あたりまで足を伸ばしてみたらとすすめるのであつた。

川のささやきの云う通りに疎水に沿つた農道を戸田部落のあたりまで散策して、当時としての大事業の夢を感じ取る。

青木牧場を訪ねればヨーロッパ風の建築が青木周蔵の夢を今に伝えている。続いて戸田農場を訪ねてみる。今は牧場やトウモロコシ畑が広がり古い別荘の森が点在し、その中の「銀の森」の名を残す古い別荘を見学すれば、森に沿つて流れる農業用水の流れがささやきかけてきた。

「この用水は有名な那須疎水よりもずっと古く江戸時代に開かれた木ノ俣用水なんだよ」とんでもない事を言い出した。

那須高原最古の戸田農場を用水を上り木ノ俣川橋を渡つて那珂川に戻る。戸田農場を過ぎると谷が狭まり、まもなくして有名な那須板室温泉街に飛び出す。

